

1

あとの問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 次の①～⑤の——線の漢字のよみをひらがなで答えなさい。

- ① 胸を反らす。
- ② 人々は和やかな表情をしている。
- ③ 大震災後の復興計画をたてる。
- ④ そんな無理は禁物だ。
- ⑤ 時間の都合がついた。

(2) 次の①～⑤の——線のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① 母に力わってあいさつする。
- ② 夏休みに草花のヒョウホンをつくった。
- ③ 作品の完成をタイボウする。
- ④ 外国ではテロがオウコウしている。
- ⑤ 昔からトウジ客でにぎわっていたところだ。

- (3) 次の①～⑤の——線の敬語について、正しいものは解答らんに○をつけ、そうでないものは正しい表現に直しなさい。

- ① あなたの申すようにします。
- ② これはあなたのお母様がいたしましたの。
- ③ 次は赤羽です。お降りになる方はございませんか。
- ④ 花子さん、そこに座りなさい。
- ⑤ 先生、このケーキをいただいでください。

- (4) 次の①～⑤の——線のカタカナにあてはまる漢字を下の「」の中から選び、記号で答えなさい。

- ① 手アツいもてなしを受ける。〔ア 暑 イ 熱 ウ 厚〕
- ② 右手がキかない。〔ア 利 イ 効 ウ 聞〕
- ③ 時間をアけて待っている。〔ア 明 イ 空 ウ 開〕
- ④ 二つの展示会をヘイコウして開く。〔ア 平行 イ 閉口 ウ 並行〕
- ⑤ じょうぶなことがAさんのシンジョウだ。〔ア 心情 イ 真情 ウ 身上〕

- (5) 次の①～⑤の□にあてはまることばをあとから選び、記号で答えなさい。

- ① 三つ子の魂^{たましい}□まで ② 木に□をつぐ
- ③ 枯れ木も□のにぎわい ④ 言わぬが□
- ⑤ □は水よりも濃^とい

ア 竹 イ 年 ウ 山 エ 血 オ 人 カ 花 キ 百 ク 船

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数については、「、」「や」「。」も一字に数えます。)

まるまると太ったブリ。冬の味覚の王様のカニ。カニの水揚げ量は境港^{さかいみなと}（鳥取県の市の名、山陰の主要漁港）が日本一だ。四季折々、多彩な海の幸に恵まれた日本海。ところがこの海には、世界でもここにしかない不思議な生態系^①（ある地域内の生物群とそれを取りまく環境とのまとまり）があるという。

ふつう海の中では、植物プランクトンを底辺に、それを食べる動物プランクトン、次にそれを食べるイワシやハダカイワシなどの小魚、そしてさらに大きな魚、さらにイルカやシャチなどの海ほ乳類……といった食物連鎖^さ（生物が食う食われるの関係でつながっていること）がある。

より大きな魚と動物プランクトンの間を結ぶ小魚は、生態系の要^{かなめ}（最も大切な部分）ともいえるもので、ふつうは複数の種が存在する。しかし、日本海では、この小魚がほとんど一種類の魚で占められているという。「一段落」

水産大学の耕洋丸（船の名前）が向かったのは、島根県の沖合。魚群探知機を使うと、モニターに水中の様子が映し出された。

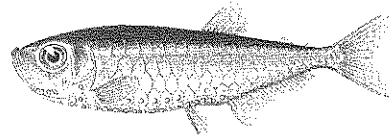
赤い帯の部分が海底を示すが、そのすぐ上に、巨大な帯状の反応があるのがわかる。これは厚さ30 m、長さ数kmにも及ぶ巨大な魚の群れだ。

濱野氏によれば、この巨大な魚の群れは、たった一種類の魚で成り立っているという。

その魚の名前はキュウリエソ。

このキュウリエソこそが、日本海食物連鎖を支える魚だというのだ。

キュウリエソ



その数は、日本海全体で推定2兆2000億匹^{ひき}にもものぼる。「日本海の隠れた主役^②」といってもいいくらいの、膨大な数だ。

キュウリエソは、全長はわずか4〜5 cmほど。水深200 mの深い海に生息する深海魚で、体からキュウリのようなにおいがするのが名前の由来だ。「二段落」

なぜ、日本海の海底には、キュウリエソばかりがくらしているのだろうか。ほかの小魚は、なぜいないのだろうか。

その答えは日本海特有の水温にあった。キュウリエソがくらす海底近くの水温は、わずか1℃と、ほかの海に比べてはるかに冷たい。これは、太平洋では水深3000 mほどの水温に相当する。実はこの寒さに強いという性質こそが、日本海の海底でキュウリエソが大繁殖^{はん}している理由なのだ。

今から数万年前に始まった大規模な氷河期の間、地球上の水分の多くが陸地の氷河として蓄え^{たくわ}えられることで、海の水が減り、海面は現在よりもかなり低くなった。このとき、日本海でも140 mほど水位が下がり、海というよりは、巨大な湖のような状態になったと考えられている。

こうしてほかの海と断絶したことで海水の出入りがなくなり、水中に溶けている酸素は長い年月のうちに使い果たされて、日本海の深い部分では、ほとんどの生きものがいったん死滅^{めつ}したと考えられている。

やがて氷河期が終わると、氷河が溶けて海面は再び上昇^{しやう}。しかし、日本海の海底の水温は、依然として低かった。

このとき、奇跡^{きせき}的にいち早く日本海に入り込んだのが、冷たい海をもともしないキュウリエソだったと考えられている。

日本海に一番乗りしたキュウリエソは、ライバルや天敵のいない間に爆発的に数を増やすことに成功した。そのため、今日に至るまで、日本海の海底はばく大な数のキュウリエソで占められることになったと見られている。「三段落」

キュウリエソは、日中は海底に巨大な群れを作っているが、夜になると を食べるために、海面近くに移動する性質を持っている。

そのキュウリエソを待ち構えているのが、海の比較的浅いところにすんでいるアジやサバやイカなど、私たちがふだ目にすることの多い生きものたちだ。

濱野氏によれば、人間にとって重要な食用魚の多くは、キュウリエソを主要な食べものに行っているという。

つまり、キュウリエソなくしては、ほかの魚は生きていくことができず、我々人間の食卓からも、海の幸が姿を消す可能性もあるというわけだ。

冷たい海に耐えられたからこそ、氷河期が終わったばかりの日本海で、数を増やすことに成功したキュウリエソ。この小さな魚の大繁栄が、世界にもまれな日本海の豊かさを支えていたのだ。【四段落】

(NHKスペシャル「日本列島」プロジェクト編著「日本列島 奇跡の大自然」より。
一部省略したところ、表記を改めたところがあります。)

問1 文中の にあてはまることばを8字以内で、「一段落」中からぬき出しなさい。

問2 線①「不思議な生態系」とありますが、それを説明した次の文の 1・ 2 にあてはまることばを文中からぬき出し、文を完成させなさい。(1 は2字、 2 は6字です。)

ふつう複数の種が存在する生態系の要ともいえる 1 が、ほとんど 2 という魚でしめられているという。

問3 線②「日本海の隠れた主役」について、

- (1) なぜ、「隠れた」という表現が使われているのですか。40字以内で説明しなさい。
- (2) 日本海の本来の「主役」としては、文中では、どのようなものがあげられていますか。

問4 線③「日本海特有の水温」とありますが、どんな点が「特有」なのですか。15字以内で答えなさい。

問5 線④・⑤「このとき」のさすものを答えなさい。

問6 線⑥「日本海に成功した」とありますが、ライバルや天敵はなぜ「一番乗り」できなかったのですか。25字以内で説明しなさい。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数については、「、」や「。」も一字に数えます。)

魚の「手づかみ漁」をしているぼく(リトル・トリイ)は、腹ばいになり、水の中へ手をつこんだ。すぐわきで、音がするのでふり向くと、ぼくの顔から6インチ(約15cm)とはなれていないところで、ガラガラ蛇(毒へび、体長は二・五mにも達する。尾のはしにわがあり、こうげきするとき尾をふって音を出す。)が、かま首をもたげて、こちらを見おろしている。ぼくはすぐんだまま動くことができなかった。

突然、ぼくと蛇の上に黒い影が落ちた。足音は少しも聞こえなかったが、祖父が来てくれたのだとわかった。低いおだやかな声で、

1 天気の話でもする口調で祖父は言った。「頭を動かすんじゃないやねえ。じつとしてろよ、リトル・トリイ。まばたきするなよ。」ぼくは言われたとおりに耐えた。蛇は攻撃の姿勢を取りながら、ぐいぐいと頭を持ち上げてゆく。

祖父の大きな手が、ぼくの顔と蛇の頭の間にさっと割りこみ、その位置にぴたっと止まった。蛇はのけぞるように頭をもたげ、シューシューと威嚇(いかく、おどしつ)の息を吐き、しつぽを急激に振ってガラガラと硬い音を響かせる。

父がおじけづいて手をどけたら、蛇はぼくの顔をまともに攻撃するだろう。

だが、祖父はびくともしなかった。その手は岩のように静止し、わずかなりともふるえてはいなかった。手の甲の太い静脈と赤銅色の皮膚に光る汗の粒が見えた。

蛇の一撃は目にもとまらぬ速さで、しかも強烈だった。祖父の手を弾丸のように襲ったのである。それでも祖父は手を引っこめなかった。大きく裂けた口が祖父の手をなかほどまでくわえ、鋭いきばが肉にめりこんだ。

1 間髪入れず、祖父はもう一方の手で蛇の頭のうしろをつかみ、力いっぱいしめつけた。蛇はからだをくねらせて地面を離れ、祖父の腕にいくえにも巻きついた。ガラガラ鳴る硬いしつぽの先で頭や顔をはげしくたたく。祖父は力をゆるめない。

どのくらいそうしていたろうか、祖父はついに片手で蛇をしめ殺してしまった。背骨のくだける音が聞こえた。祖父は蛇をドサツと投げ捨てた。

I 『地面に腰をおろすと、祖父は長いナイフを手早く抜いた。かみ傷に刃先を当てがい、スツと一文字に切り裂く。血が噴き出し、手からひじを伝わって流れ落ちる。ぼくは祖父のところへはい寄った。動転し、腰が抜けてしまっていたのだろう。祖父の肩につかまってどうにか立ち上がった。祖父はナイフの傷口に口を当て、血を吸い出しては吐き出している。ぼくはどうすればいいのかわからず、

3 「ありがとう、おじいちゃん」とだけ言った。ぼくを見上げて、祖父はニヤツと笑った。口もとから顔じゅう、血がべつとりついている。

2 「くそっ！」祖父は言った。「でも、二人であん畜生を痛い目にあわせてやったぞ」

3 「はい」ぼくは少しホツとして答えた。「二人で痛い目にあわせてやった」ぼくが蛇をやっつけるのに役だったかどうかはあやしかったが、

祖父の手は見る間にどんどんふくれあがり、色も青黒く変わってきた。シカ皮のシャツのそでをナイフで切り裂く。その腕はもう一方の腕の倍ぐらいにふくらんでいた。ぼくはこわくなった。

祖父は帽子を取り、顔をあおいだ。「やけに暑いな、この時季にしちゃ」祖父の顔はどこか変だった。二の腕までも青く変色してきた。

「おばあちゃんを呼んでくる」ぼくは駆けだした。ふり向くと、祖父はぼくを見てはいるのだが、どこか遠い目つきだった。「ちよいと休んだら、まっすぐ帰るからな」けだるい静かな口調で祖父は言った。

(途中のあらすじ) ぼくの話聞いた祖母は、一瞬のためらいも顔に表さず、小屋の外へ飛び出し、祖父のいる土手に向かってかけていく。火をおこし、薬をせんじはじめた祖母はあたりを見まわし、山の斜面を背にしたウズラの巣穴を見つけた。

祖母はスカートの上の端をゆわえ、下の端には石ころを数個結びつけた。こうしておいて、ウズラの巢の真上を風のよう^④にしのび足で動きまわった。なにごとかとウズラが巢からはい出してくる。すかさず祖母はスカートを投網^{とあみ}(円すい形のあみで、水中に、広がるように投げ入れる)のように投げかけた。

火のそばへもどると、祖母はウズラを二つに開いてそれを祖父の手のかみ傷の上に当て、足の裏でペタペタくりかえし踏みつける。しばらくして引きはがすと、ウズラは肉や内臓の内側まですっかり緑色に染まっていた。蛇の毒だ。

もう日は暮れていた。祖母は祖父にかかりきりだった。犬たちはまわりにすわりこんでじっと見まもっている。(ア)あたりは夜のやみに包まれはじめた。祖母が火をもっと大きくするよう言いつけた。祖父のからだを暖めなくてはならない。それに、今動かすわけにはゆかないのだ。祖母はスカートを祖父の上に広げた。(イ) ぼくもすぐにシカ皮のシャツを脱いでかけてあげた。ズボンも脱ごうとすると、「おまえのズボンはちっちゃいから、おじいちゃんの片足さえおえないよ」と止められた。(ウ)

Ⅱ 『ぼくは火の当番だった。祖母の指示で、祖父の頭のそばにも火をたいた。たきぎを取ってきたり、二つの火の勢いが少しでも弱くならないよう気をくぼる。祖母は祖父にびったりからだをくつつけて横になった。(エ) ぼくも反対側から祖父に身を寄せた。ぼくのからだは小さいので、あまり体温を分けてあげられないだろうと思ったが、祖母はとても役にたつと言ってくれた。「おじいちゃんが死んじゃうなんて、そんなこと絶対ないよね」ぼくは祖母に話しかけた。

一部始終を祖母に話して聞かせ、ぼくの不注意のせいだと言うと、祖母はこう答えた。「いいや、だれのせいでもないんだよ。ガラガラ蛇のせいでもない。起こっちまったことはだれのせいにしても始まらないんだよ、リトル・トリー」ぼくは

いくらか気持ちが軽くなったが、まだ胸の奥では自分の不注意をくやむ気持ちがわだかまっていた。』

祖父が小さな声でポツリポツリと話しはじめた。ぼくは緊張して耳を澄ます。それは山の中を駆けまわって遊んだ子どものころの話だった。祖母がぼくにささやいた。「おじいちゃんは、眠りながら昔を思い出してるんだよ」祖父はとぎれとぎれにひと晩じゅう話しつづけた。夜明け近くになって、祖父は話しやみ、安らかな規則正しい寝息をたてはじめた。祖母に「もう、おじいちゃんはいじょうぶだね、死につこないよね」と言うと、祖母は「そうとも、死につこないさ、リトル・トリー」と答えた。ぼくは祖父の腕の中で眠りに落ちていった。

(フォレスト・カーター「リトル・トリー」より。一部省略したところ、表記を改めたところがあります。)

問1 文中の 1 3 にあてはまることばをあとから選び、記号で答えなさい。

ア まさか イ ただ ウ もし エ なんて オ まるで

問2 線①「間髪入れず」の意味として適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア まちがいなく
イ ほとんど間をおかないで
ウ ぎりぎりのところで
エ 急所をはずさないで

問3 ———線②「でも、二人でゝあわせてやったぞ」とありますが、この「でも」は、どんなことがらを受けて使っているのですか。15字以内で答えなさい。

問4 ———線③「『はい』ぼくは少しホツとして答えた」とありますが、このときのぼくの気持ちに近いものを次から選
び、記号で答えなさい。

- アへびはやつつけられたが、腰がぬけた自分はとても情けない。
- イ祖父のことは気になるが、へびはやつつけられたので安心だ。
- ウ自分も祖父の役に立つことができ、ほこらしい気持ちがする。
- エかまれても片手でへびをやつつける祖父の力強さには、感心する。

問5 ~~~~~線a～cの表現から、どのようなことが分かりますか。20字以内で説明しなさい。

問6 I『地面に腰をおろすと、ゝあやしかったが。』の部分から、祖父が幼いぼくを気づかって(思いやつて)いるこ
とがわかる表現を、15字以内でぬき出しなさい。

問7 ———線④「風のように」の「ように」と同じ使い方のものを、次から選び、記号で答えなさい。

- ア防災用品が飛ぶように売れている。
- イ問題がやさしすぎたように思われます。
- ウ先生の言うように書きましたか。
- エ病気がはやく良くなりますように。

問8 文章の後半には、「体温で暖めようと言うのである。」という文がぬけています。文中の(ア)～(エ)のどこに
おぎなつたらよいか、記号で答えなさい。

問9 II『ぼくは火の当番だった。ゝわだかまっていた。』について、あとの問いに答えなさい。

- (1) この部分から読み取れるぼくの気持ちを二つ、それぞれ15字以内でまとめなさい。
- (2) また、同じ部分から、祖母が幼いぼくを気づかって(思いやつて)いることがわかる表現を、20字以内で一つぬ
き出しなさい。

得点

受験番号
氏名

		1		2		3	
(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)
①	①	①	①	①	①	①	①
②	②	②	②	②	②	②	②
③	③	③	③	③	③	③	③
④	④	④	④	④	④	④	④
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥
⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦	⑦
⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧	⑧
⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨	⑨
⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩
⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪	⑪
⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫	⑫
⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬	⑬
⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭	⑭
⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮
⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯	⑯
⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰	⑰
⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱
⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲	⑲
⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗
㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟
㊱	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸
㊹	㊺	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	
点							